

# 会議・視察報告

## 平壤・羅先出張記

ERINA 調査研究部長 三村光弘

2011年3月12日～17日の間、北朝鮮の平壤を、3月19日～21日の間、羅先経済貿易地帯を訪問した。北朝鮮では、故金日成主席生誕100年となる来年を歴史の区切りとして祝おうとしている。2010年に入り公式発表からは消えたが、来年は「強盛大国の大門」を開く年となることが期待されている。

北朝鮮における強盛大国とは、政治思想大国、軍事大国、経済大国の3要素からなるとされており、このうち前の2つはすでに完成しているとされている。したがって、実質的には経済大国の建設が強盛大国建設の喫緊の課題となっている。経済大国建設の目標は、先進国の都市部並みの生活水準の実現とされている。現実的には、まず中進国レベルへのレベルアップとなろう。

中長期的な目標である強盛大国建設の中で、来年の「強盛大国の大門」を開くことの内容について、社会科学者の経済学者との交流で質問したところ、すべての産業分野において、過去の最高生産水準の突破を実現することであると回答が返ってきた。1980年代後半から90年代初めにかけての旧ソ連・東欧の社会主義政権崩壊とそれに伴う経済危機、「苦難の行軍」と呼ばれる苦しい時期を乗り越え、回復から確固たる成長への歩みを確かにすることが求められていると言えよう。

今回の訪問では、訪問した平壤や羅先のあちらこちらで、国民生活の向上を通じて、経済大国への歩みを国民に感じてもらい、朝鮮式社会主義の優位性をアピールしようとする各種の建設や改装、変化を目にした。

### 平壤で進む住宅建設

平壤では現在、来年の完成を目指して10万世帯分の集合住宅の増改築を行っている。住宅が比較的多く建設されているのは、中心市街地よりも少し郊外に向かったところだった。報道でよく出てくるのは西の万景台区域や平壤火力発電所のある平川区域、大同江の対岸にある楽浪区域、北部の兄弟山区域だ。来年までに10万世帯分の供用が始まるのかどうかについては確信が持てなかったが、2009年あたりからこれまでよりも相当速いスピードで建築が行われていることは事実だ。

写真1 平壤市内で建設されているアパート



(出所) 筆者撮影

このような動きは何を意味するのだろうか。住宅建設には多大な資金と資材を必要とする。10万世帯という挑戦的な目標を掲げるということは鋼材、セメントなどの生産が向上し、需要をまかなうことができるという読みがあるのではないだろうか。また、「10数年もの間、苦しい生活に耐えてきた人びとによりよい生活ができるようになったと実感させなければならない」（『朝鮮新報』2009年11月4日付記事中のキム・グクナム中央連合指揮部参謀長の言葉）という言葉に代表されるように、住宅建設は平壤市民への慰労と士気の向上も重要な目的となっているように感じる。現在の北朝鮮では、生活の向上を物質的に、目に見える形で表すことが必要とされている。

### 平壤市民の生活の端々に変化が

住宅建設のように大規模な変化はそれほど多くはないが、平壤市民の生活の中に、様々な変化が見られるようになってきている。まず、平壤名物だった市内の交差点で交通整理をする女性の「交通安全員」に代わり、信号機が交通整理を行うようになった。これまでも酷暑の時期と厳冬期には信号が使われていたが、これとは別に発光ダイオードを利用した信号機が設置されていた。

この信号機は交差点で信号待ちをする車列の長さを道路に埋め込んだループコイルで感知し、通行量の多い道路により長い通行時間を与えるようにプログラムされているよ

写真2 市内の交差点



(出所) 筆者撮影

写真3 大同江果樹総合農場のリンゴ畑



(出所) 筆者撮影

写真4 ダチョウ牧場のダチョウ



(出所) 筆者撮影

うであった。北朝鮮ではここ数年、科学技術を広く活用して、先端技術を生産現場や国民生活に応用する流れが定着している。信号機もその流れの一環と言える。国民が肌で感じる変化をどう作り出すかが、政策の重要な課題となっているのだと思った。

今回の訪問では、2008年12月に着工され、現在は135ヘクタールの果樹園となっている大同江果樹総合農場や1990年代後半に着工され、現在では7000羽ほどのダチョウを飼育するダチョウ牧場を訪問した。大同江果樹総合農場の主要な作物はリンゴで、平壤市民にリンゴやその加工品を供給することが主要な任務となっているとのことであった。ダチョウ牧場では、革を輸出するほかは肉や卵を食用に、卵の殻を工芸品の原料にと市民生活を豊かにするために国内への提供を目的としてダチョウの生産と食品加工を行っているとのことであった。

#### 最新技術でインフラ再整備

今回の訪問では、昨年完成した金日成総合大学の電子図

書館も見学した。同図書館の電子閲覧室には、Linuxベースの「赤い星」OSがインストールされているようだった。電子図書館では、多くの書籍をスキャンし、電子化することにより、検索の便宜とともに、同じ資料を多人数で共有することができるようになっていた。休みの時期であったので、図書館にはほとんど学生がいなかったが、新品のコンピュータが並んでいる様子は、日本の大学の図書館やコンピュータセンターと変わらなかった。

同図書館の中には、「現時代通信網」という題名の通信網の解説図が掲げられており、これを見ると、北朝鮮の「国家網」(IPベースの巨大なイントラネットと思われる)に各機関のネットワークが接続されるようになっている。各機関のネットワークには、コンピュータだけではなく、テレビ電話や一般の電話機の写真がある。それだけではなく、有線テレビジョンや一般電話網、移動通信網も「国家網」に接続されるようになっている。北朝鮮では第3世代移動通信ネットワークが全国に拡充され、加入者が増えていることが報道されているが、それだけではなく、IPベースの固定電話網も今後相当普及することが予想される。

脆弱な通信インフラのため、限定的にしか利用されていなかった固定電話網が、IPベースのネットワークの全国的範囲での運用によって身近なものに変わりつつあることは、北朝鮮が最新科学技術の産業や国民生活への応用によって、これまでの遅れを一気に取り戻そうとしていることの一例だ。

#### 羅先—中国やロシアとの経済協力進展の兆し

羅先経済貿易地帯では、羅津の市内中心部にある南山ホテルに宿泊した。このホテルは戦前、日本が建てた建物とのこと。夜はホテル前の広場の照明も消え、暗くなる。今回の訪問で感じた変化の第一号は、ホテルの建物の輪郭に

写真5 金日成総合大学電子図書館の閲覧室



(出所) 筆者撮影

写真6 通信網の解説図



(出所) 筆者撮影

写真7 羅先のタクシー



(出所) 筆者撮影

写真8 元汀税関の新検査施設



(出所) 筆者撮影

沿って施された発光ダイオードの電飾だった。まわりが暗いだけに、電飾の明るさが目立つ。その他、昼間太陽光を利用して蓄電し、夜の一定時間照明を行う街灯が運用されており、厳しい電力事情の中でも市民生活に彩りを添えるようになっていた。

このほかに変化としては、中国やロシアとの経済協力、特にインフラ関係の協力が進展しそうな兆しを感じた。羅先市関係者との面談を通じて、中国との国境である元汀税関と羅津間を結ぶ道路の舗装工事が間もなく始まることや、ロシアのハサンから羅津港に至る鉄道の改修作業が再開されたことを聞いた。特に、元汀税関と羅津間の道路舗装はこれまで、何度も改修の報道があったものの実現されなかった経緯があり、大変注目される。また、市内でも道路整備があちこちで進められていた。

昨年末から今年初めにかけて行われた中国・琿春産の石炭を羅津港経由で中国・上海港に送ったが、物資の大量輸送には、道路輸送だけでは限界があることも明らかになり、中国、北朝鮮、ロシアを結ぶ鉄道輸送の重要性も地元の人々に

はこれまでよりもより切実に認識されているようであった。

昨年夏からの変化も大きい

その他感じた変化としては、平壤でもそうだったが、羅先でもタクシーが更新され、新しい車両での営業が目立っていた。タクシー代の支払は基本的には外貨払いのようなので、ある程度の経済力がないと乗ることはできない。しかし、中継貿易拠点としてビジネスが盛んになっていくためのインフラとして必要なものなのだろう。羅先市内でも、昨年からのタイのロックスレーとの合弁会社が第3世代移動通信システムの運用を行っており、携帯電話での連絡が一般化していたことも昨年夏には見られなかった大きな変化だった。

滞在中、2009年12月に金正日総書記が訪問し、羅先市が「特別市」になるきっかけとなったといわれている羅先大興貿易会社の水産工場を見学した。今世紀に入って建設された同工場は設備も新しく、衛生的であった。現在は日本の経済制裁によって生産された製品は日本へは来ない。

## 写真9、写真10 羅先大興貿易会社の水産加工工場



(出所) 筆者撮影

現状の設備を利用して、羅先経済貿易地帯が中継輸送および加工貿易でそれなりの成果を上げるためには、日本や韓国といった周辺国と北朝鮮の関係が改善することが必要となる。これは羅先の人々だけの努力では解決できないことであり、北朝鮮最初の経済特区であり、外部との接触が比較的多い羅先では、国際関係の改善、緊張緩和を願う気



(出所) 筆者撮影

持ちは平壤よりも強いのではないかと感じた。一地方として、中央政府の政策に服従する一方、独自の発展を目指すという、ある意味ジレンマを抱える羅先に、北東アジア地域協力への熱意がありながらも、それが国の政策に反映されないことを残念に思う新潟の姿が重ね写されたような気がした。